

主な医薬品とその作用

問 6 1

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜの約 8 割は細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルス（ライノウイルス、コロナウイルス、アデノウイルスなど）の感染がある。
- b かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が 4 日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c かぜ薬は、細菌やウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することにより、咳や発熱などの諸症状の緩和を図るものである。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問62

次のかぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその配合目的の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分	配合目的
a	ブロムヘキシン塩酸塩	発熱を鎮め、痛みを和らげる
b	デキストロメトルファン臭化水素酸塩	咳を抑える
c	サリチルアミド	痰の切れを良くする
d	トラネキサム酸	炎症による腫れを和らげる

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 |

問63

かぜ（感冒）の症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 葛根湯は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされ、重篤な副作用はない。
- b 麻黄湯は、体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。
- c 香蘇散は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる。
- d 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問64

プロスタグランジン及び解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プロスタグランジンは、ホルモンに似た働きをする物質で、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。
- b プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節するほか、炎症の発生にも関与する。
- c 解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、腎血流量を増加させる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

問65

解熱鎮痛薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- b エテンザミドは、他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合してはならないとされている。
- c イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

問66

眠気防止薬の有効成分として配合されるカフェイン（無水カフェイン、安息香酸ナトリウムカフェイン等を含む。）に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- b カフェインは、眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の増加をもたらす。
- c 小児用の眠気防止薬として、無水カフェインを用いる。
- d 授乳中の女性がカフェインを摂取すると、その一部が乳汁中に移行する。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問67

鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢^{おう}への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示し、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c メクリジン塩酸塩（塩酸メクリジン）は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。
- d 6歳未満では、自律神経系が未発達であるため、乗物酔いが起こることはほとんどないとされており、一般用医薬品として、6歳未満を対象とした乗物酔い防止薬は販売されていない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

問68

小児の疳^{かん}及び小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、疳^{かん}の虫等の症状については、成長に伴って自然に治まるのが通常である。
- b 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳^{かん}の虫等の症状を鎮めることを目的とする医薬品（生薬製剤・漢方処方製剤）であり、小児における虚弱体質の改善は目的としていない。
- c 小児の疳^{かん}を適応症とする漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児に使用することができる。
- d 小児の疳^{かん}を適応症とする主な漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯^{さいこかりゅうこつぼれいとう}、桂枝加竜骨牡蛎湯^{けいしかりゅうこつぼれいとう}、抑肝散^{よくかんさん}、抑肝散加陳皮半夏^{よくかんさんかちんぴはんげ}のほか、小建中湯^{しょうけんちゅうとう}がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 誤 |

問69

鎮咳去痰薬^{がい たん}の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳^{せき}や喘息^{ぜん}の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b トリメトキノール塩酸塩は、抗炎症作用のほか、気道粘膜からの粘液の分泌を促進することを目的として用いられる。
- c ノスカピン塩酸塩^{がい}は、モルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- d エチルシステイン塩酸塩^{たん}は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることを目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問70

鎮咳去痰薬に配合される生薬成分及び漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a セキサンは、ヒガンバナ科のヒガンバナ鱗茎を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- b キョウニン^{たん たん}は、キキョウ科のキキョウの根を基原とする生薬で、痰又は痰を伴う咳に用いられる。
- c 麦門冬湯^{ばんもんどうとう}は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ^{せき}、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされるが、水様痰の多い人には不向きとされる。
- d 半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}は、構成生薬としてカンゾウを含む。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問71

口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ポビドンヨードが配合された含嗽薬^{そう}では、その使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。
- b セチルピリジニウム塩化物は、喉の粘膜を刺激から保護する目的で配合される。
- c アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- d 主として喉の痛み等を鎮めることを目的とし、咳や痰に対する効果を標榜しない漢方処方製剤として、桔梗湯^{ききょうとう}、駆風解毒散^{くふうげどくさん}、白虎加人参湯^{びやっこかにんじんとう}があり、これらはいずれも構成生薬としてカンゾウを含む。

a b c d

- 1 正 誤 正 誤
- 2 誤 誤 誤 誤
- 3 誤 正 誤 誤
- 4 正 正 誤 正
- 5 正 誤 正 正

問72

次の表は、ある一般用医薬品の制酸薬に含まれている成分の一覧である。この制酸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

1日量 12錠中 成人（15才以上）	
銅クロロフィリンカリウム	120mg
無水リン酸水素カルシウム	1020mg
沈降炭酸カルシウム	1020mg
水酸化マグネシウム	960mg
ロートエキス	30mg

- a この制酸薬には、胃粘膜保護・修復成分が含まれている。
- b 腎臓病の診断を受けた人は、この制酸薬を使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すべきである。
- c この制酸薬と、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。
- d この制酸薬は、授乳中の人は使用しないか、使用する場合は授乳を避ける必要がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

問 7 3

胃腸に作用する薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ソファルコンは、胃粘膜の保護・修復作用を期待して配合されている場合がある。
- b ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。
- c メチルメチオニンスルホニウムクロライドは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されている。
- d トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問74

胃又は腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 六君子湯りっくんしとうは、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐おうに適すとされる。
- b 人参湯にんじんとう（理中丸りちゅうがん）は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。
- c 桂枝加芍薬湯けいし かしやくやくとうは、体力中等度以下で腹部膨満感のある人のしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。
- d 大黄甘草湯だいおうかんぞうとうは、体力に関わらず広く応用され、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔などの症状の緩和に適すとされる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

問75

腸の薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a センノシドは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することしゃで瀉下作用をもたらすと考えられている。
- b 次没食子酸ビスマスもつしょくしは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂れん）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として用いられる。
- c ロペラミド塩酸塩は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的として配合される。
- d 日本薬局方収載のケツメイシ、ゲンノショウコは、煎薬として整腸（便通を整える。）、腹部膨満感等に用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問76

胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- b オキセサゼインは、妊娠中や小児における安全性が確立されていないため、妊婦又は妊娠していると思われる女性、15歳未満の小児では、使用を避けることとされている。
- c 消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して、チキジウム臭化物のような局所麻酔成分が配合されている場合がある。

a b c

- 1 正 正 誤
- 2 正 誤 正
- 3 誤 誤 正
- 4 誤 正 誤
- 5 正 正 正

問77

駆虫薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と旋毛虫である。
- b パモ酸ピルビニウムは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c サントニンは、服用後、一時的に物が黄色く見えたり、耳鳴り、口渇が現れることがある。
- d 駆虫薬は、腸管内に生息する虫体のほか、虫卵にも作用する。

a b c d

- 1 正 正 正 正
- 2 正 誤 誤 正
- 3 正 誤 誤 誤
- 4 誤 誤 正 誤
- 5 誤 正 誤 正

問 7 8

強心薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴオウは、ウシ科のウシの胆^{のう}囊中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇作用があるとされる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示し、一般用医薬品では、1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- c 苓^{りょうけい}桂^{じゅつ}朮^{かんとう}甘湯は、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。
- d ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問79

高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ^{しび}）の緩和等を目的として使用される。
- b 大豆油不^{けん}飽化物（ソイステロール）は、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
- c リノール酸は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える効果を期待して用いられる。
- d パンテチンは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ^{しび}）の緩和等を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問80

貧血用薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コバルトは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- b 鉄製剤服用の前後30分に緑茶を摂取すると、鉄の吸収が良くなることが知られている。
- c 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがあるが、服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。
- d 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 8 1

循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユビデカレノン^キは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c コウカ^キ（キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬）には、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- d 七物降下湯^{しちもつこう}は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔出血^じ、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 8 2

痔、痔疾用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 痔は、肛門付近の血管が鬱血し、肛門に負担がかかることによって生じる肛門の病気の総称である。
- b トコフェロール酢酸エステルは、血管を収縮する働きがあるとされ、止血効果を期待して用いられる。
- c 殺菌消毒成分であるアラントインは、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として配合される。
- d 乙字湯は、体力中等度以上で大便が硬く、便秘傾向のあるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 |

問 8 3

婦人薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a エストラジオールを含有する婦人薬は、一般用医薬品では内服薬のみが認められている。
- b エチニルエストラジオールは、長期連用することにより、血栓症を生じるおそれがある。
- c 桂枝茯苓丸は、体力虚弱なものの月経不順や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤であり、特に重篤な副作用は知られていない。
- d 桃核承気湯は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 8 4

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされる。構成生薬としてマオウを含む。

- 1 か み しょうようさん 加味 逍 遙散
- 2 さい こ けい し かんきょうとう 柴胡桂枝乾 姜湯
- 3 し もつとう 四物湯
- 4 ご しゃくさん 五 積 散
- 5 とう き しゃくやくさん 当帰 芍 薬散

問 8 5

内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 皮膚感染症（たむし、疥癬等）により、湿疹やかぶれ等に似た症状が現れた場合、アレルギー用薬によって一時的に痒み等の緩和を図ることは適当でなく、皮膚感染症そのものに対する対処を優先する必要がある。
- b パーキンソン病の治療のため医療機関でセレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人が、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、副作用が現れやすくなるおそれが高く、使用を避ける必要がある。
- c 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものがある。
- d メキタジンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

問 8 6

鼻に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸^{たけ}）となっている場合には、一般用医薬品のスプレー式鼻炎用点鼻薬の使用が適当である。
- b 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎^{くう}並びに蓄膿症^{のう}である。
- c アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。

a b c

- 1 正 正 正
- 2 正 誤 誤
- 3 誤 正 誤
- 4 誤 正 正
- 5 誤 誤 正

問 8 7

眼科用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- b クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵^{じん}）等による目のアレルギー症状及びアレルギー性でない結膜炎に対して有効である。
- c イプシロン-アミノカプロン酸は、抗菌作用を示し、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎^{けん}などの化膿性^{のう}の症状の改善を目的として用いられる。
- d プラノプロフェンは、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 8 8

きず口等の殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヨードチンキは、ヨウ素及びヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、化膿^{のう}している部位の消毒に用いる。
- b アクリノールは、黄色の色素で、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- c エタノール（消毒用エタノール）は、皮膚刺激性が強いため、患部表面を軽く清拭するととどめ、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することは避けるべきとされている。

a b c

- 1 正 正 誤
- 2 正 誤 正
- 3 正 正 正
- 4 誤 正 誤
- 5 誤 誤 正

問 8 9

外皮用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a イブプロフェンピコノールは、吹き出物に伴う皮膚の発赤や腫れを抑えるほか、吹き出物（面皰^{ぼう}）の拡張を抑える作用があるとされる。
- b ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間及び使用後も当分の間は、天候にかかわらず、戸外活動を避けるとともに、日常の外出時も塗布部を衣服、サポーター等で覆い、紫外線に当たるのを避ける必要がある。
- c ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL中に0. 0 2 5 m g を超えて含有する外皮用薬では、特に長期連用を避ける必要がある。
- d 主なステロイド性抗炎症成分としては、デキサメタゾン、プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル、ピロキシカム等がある。

a b c d

- 1 正 正 正 正
- 2 正 正 正 誤
- 3 正 誤 誤 正
- 4 誤 正 誤 誤
- 5 誤 誤 正 正

問90

皮膚に用いる薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- b 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。
- c 酸化亜鉛は、患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用を示すため、患部が浸潤又は化膿^{のう}している場合に用いられる。
- d ヘパリン類似物質は、血液凝固を抑える働きがあるため、出血性血液疾患（血友病、血小板減少症など）の診断を受けた人では、使用を避ける必要がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

問91

皮膚に用いる薬に配合される抗菌成分及び抗真菌成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a バシトラシンは、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- b ホモスルファミンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- c オキシコナゾール硝酸塩は、副作用としてかぶれ、腫れ、刺激感等が現れることがある。
- d ピロールニトリンは、患部を酸性にすることにより、皮膚糸状菌の発育を抑える目的で用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

問92

歯痛・歯槽膿漏^{のう}薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a フェノールは、歯痛薬（外用）に配合されている場合があるが、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔^{くわう}粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。
- b アミノ安息香酸エチルは、齲蝕^{うしょく}（むし歯）により露出した歯髓を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる。
- c カンフルは、冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺^ひさせることによる鎮痛・鎮痒^{よう}の効果を期待して配合されている。
- d チモールは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して配合されている。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

問93

禁煙補助剤及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 咀嚼^{そしゃく}剤は、菓子のガムのように噛み、唾液^かを多く分泌させながら使用することが望ましい。
- b うつ病と診断されたことのある人は、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける必要がある。
- c ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- d 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収^{くわう}が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取^{そしゃく}した後しばらくは咀嚼^{そしゃく}剤の使用を避けることとされている。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

問94

滋養強壯保健薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アスパラギン酸ナトリウムは、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。
- b システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあるとされる。
- c 補中益気湯ほちゅうえつきとうは、体力虚弱で元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠けん、病後・術後の衰弱、食欲不振、寝汗、感冒に適すとされる。
- d ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問95

生薬成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a シンイは、アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性つるの茎を、通例、横切りしたものを基原とする生薬で、泌尿器用薬では尿量増加（利尿）作用を期待して用いられる。
- b ジュウヤクは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- c チンピは、ミカン科のウンシュウミカンの成熟した果皮を基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- d ユウタンは、クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問96

消毒薬の殺菌消毒成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 日本薬局方に収載されているクレゾール石^{けん}鹼液（クレゾール石ケン液）は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要はある。
- b エタノールのウイルスに対する不活性効果は、イソプロパノールよりも低い。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、強い還元力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- d トリクロロイソシアヌル酸（トリクロロイソシアヌル酸）は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問97

消毒薬の誤用・事故による中毒への応急処置に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置として、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときはまず水を飲ませる。
- b 誤って目に入った場合、顔を横に向けて上から水を流すか、水道水の場合には弱い流れの水で洗うなどにより、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。
- c アルカリ性の消毒薬が誤って皮膚に付着した場合、水洗する前に、中和剤を用いて中和する。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

問98

衛生害虫及びその防除に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、^{くん}燻蒸処理を行えば、殺虫効果を示す。
- b トコジラミは、シラミの一種でなくカメムシ目に属する昆虫で、ナンキンムシとも呼ばれ、刺されると激しい痒痛を生じ、アレルギー反応による全身の発熱、睡眠不足、神経性の消化不良を起こすことがある。
- c ノミによる保健衛生上の害としては、主に吸血されたときの^{かゆ}痒みであるが、元来、ペスト等の病原細菌を媒介する衛生害虫である。
- d 蚊（アカイエカ、シナハマダラカ等）は、吸血によって皮膚に^{しん かゆ}発疹や痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

問99

殺虫剤の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジクロロボスは、有機リン系殺虫成分であり、アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と可逆的に結合してその働きを阻害する。
- b ピレスロイド系殺虫成分の殺虫作用は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することによるものである。
- c プロポクスルは、有機塩素系殺虫成分で、アセチルコリンエステラーゼの阻害によって殺虫作用を示し、一般に有機リン系殺虫成分に比べて毒性が高い。
- d メトプレンは、幼虫が十分成長して^{さなぎ}蛹になるのを抑えているホルモン（幼若ホルモン）に類似した作用を有し、幼虫が^{さなぎ}蛹になるのを妨げる。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問100

一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般の生活者が正しく用いて原因疾患を把握し、一般用医薬品による速やかな治療につなげることを目的として用いられる。
- b 悪性腫瘍や心筋梗塞など重大な疾患の診断に関係するものは、一般用検査薬の対象外である。
- c 検体中に対象物質が存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を擬陰性^ぎという。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	誤	正

医薬品の適正使用と安全対策

問 101

一般用医薬品（人体に直接使用しない検査薬を除く。）の添付文書等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書等の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言を記載することとされている。
- b 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載は省略されることがある。
- c 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回定期的に改訂がなされている。
- d 重要な内容が変更された場合には、改訂された箇所を明示することとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問102

一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エアゾール製品の添付文書等には、「保管及び取扱い上の注意」の項目中に高圧ガス保安法に基づく注意事項が記載されているが、その容器への表示は義務づけられていない。
- b 医薬品を携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- c カプセル剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- d 点眼薬は、開封後長期間保存すると変質するおそれがあるため、家族間で共用し、できる限り早目に使い切ることが重要である。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |

問103

次の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書等において、妊娠期間の延長、胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため、「次の人は服用しないこと」の項目中に、「出産予定日12週以内の妊婦」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 アミノ安息香酸エチル
- 2 エチニルエストラジオール
- 3 アスピリンアルミニウム
- 4 ビタミンA
- 5 オキセサゼイン

問104

次の医薬品成分のうち、その一般用医薬品の添付文書等において、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、「してはいけないこと」の項目中に、「長期連用しないこと」と記載することとされている胃腸薬の成分の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a テプレノン
- b ラクトミン
- c アルジオキサ
- d タンニン酸アルブミン

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問105

次の一般用医薬品の漢方処方製剤のうち、その添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として「甲状腺機能障害」と記載することとされているものとして、正しいものの組合せはどれか。

- a ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散
- b けいしとう 桂枝湯
- c しょうせいりゅうとう 小青竜湯
- d はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問106

次の表は、ある一般用医薬品のアレルギー用薬に含まれている成分の一覧である。このアレルギー用薬の添付文書等において、使用上の注意に記載することとされている事項として、正しいものの組合せはどれか。

2錠中	
メキタジン	4mg
リボフラビン	12mg
ピリドキシン塩酸塩	30mg
ニコチン酸アミド	60mg

- a 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと。
- b てんかんの診断を受けた人は、服用前に専門家に相談すること。
- c 緑内障の診断を受けた人は、服用前に専門家に相談すること。
- d 下痢の症状がある人は、服用前に専門家に相談すること。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問107

次の表は、ある一般用医薬品の鎮咳去痰薬（内服液剤）に含まれている成分の一覧である。この鎮咳去痰薬（内服液剤）の添付文書等において、「使用上の注意」の項目中に「過量服用・長期連用しないこと」と記載することとされている理由として、正しいものの組合せはどれか。

60 mL 中	
ジヒドロコデインリン酸塩	30 mg
グアイフェネシン	170 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	12 mg
無水カフェイン	62 mg

- a 腸管粘膜への刺激が大きくなり、腸管粘膜に炎症を生じるおそれがあるため。
- b 依存性・習慣性がある成分が配合されており、乱用事例が報告されているため。
- c 倦怠感や虚脱感等が現れることがあるため。
- d 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問108

次の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書等において、生じた血栓が分解されにくくなるため、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」と記載することとされている内服薬の成分の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a スクラルファート（スクラルファート水和物）
- b 次硝酸ビスマス
- c パパベリン塩酸塩
- d トラネキサム酸

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問109

次の一般用医薬品のうち、その添付文書等において、乳児に神経過敏を起こすことがあるため、「次の人は服用しないこと」の項目中に「授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載することとされている主な成分・薬効群の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェンヒドラミンサリチル酸塩が配合された鎮^{うん}暈薬
- b テオフィリンが配合された鎮^{がい}咳^{たん}去痰薬
- c ブロモバレリル尿素が配合された解熱鎮痛薬
- d ダイオウが配合された漢方処方製剤

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 1 1 0

次の一般用医薬品の漢方処方製剤のうち、その添付文書等において、鬱血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため、「してはいけないこと」の項目中に「症状があるときのみの服用にとどめ、連用しないこと」と記載することとされているものはどれか。

- 1 ごしゅ ゆとう
呉茱萸湯
- 2 おうれん げどくとう
黄連解毒湯
- 3 しゃくやくかんぞうとう
芍薬甘草湯
- 4 ましにんがん
麻子仁丸
- 5 うんせいいん
温清飲

問 1 1 1

次の医薬品成分と、一般用医薬品の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	医薬品成分	基礎疾患
a	ジプロフィリン	腎臓病
b	アセトアミノフェン	胃・十二指腸潰瘍
c	スコポラミン臭化水素酸塩水和物	心臓病
d	ジフェニドール塩酸塩	緑内障

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 1 2

次の表は、ある一般用医薬品の解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。この解熱鎮痛薬の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等の正誤について、正しい組合せはどれか。

2錠中	
アスピリン	660mg
合成ヒドロタルサイト	200mg

- a 心臓病
- b 肝臓病
- c 糖尿病
- d 貧血

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

問 1 1 3

次の表は、ある一般用医薬品に含まれている成分の一覧である。この医薬品を購入する目的で店舗を訪れた35歳女性から、次のような相談を受けた。この女性に対する登録販売者の説明について、不適切なものの組合せはどれか。

<相談内容>

このかぜ薬を使用する際に気を付けることを教えてほしい。以前かぜ薬を使用したときに尿の色が鮮やかな黄色になり気になったため、尿に目立った色が見つからないものがよい。常備薬として、息子（10歳）にも使いたいと思っている。

1回量2錠中	
ジヒドロコデインリン酸塩	8mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	20mg
グアイフェネシン	60mg
キキョウ乾燥エキス末	53.3mg
オウヒ乾燥エキス	24mg
イブプロフェン	150mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2.5mg
リボフラビン	4mg

- a 服用後、眠気があらわれることがあります。
- b 息子さんが服用する時は、半量の1回1錠服用するようにしてください。
- c 高熱や呼吸困難を伴う激しい咳のような症状がみられる場合は、他の疾患の可能性があるため、医療機関を受診してください。
- d この薬を飲んでも尿の色が鮮やかな黄色になることはありませんので、安心してください。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

問 1 1 4

医薬品等の安全性情報等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に作成される。
- b 医薬品・医療機器等安全性情報は、ブルーレターとも呼ばれる。
- c 緊急安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
- d 緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達であり、一般用医薬品についての情報が発出されたことはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 1 1 5

医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、約 3 0 0 0 の医療機関をモニター施設に指定して、厚生省（当時）が直接副作用報告を受ける「医薬品副作用モニター制度」としてスタートした。
- b 既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合された医薬品については、5 年を超えない範囲で厚生労働大臣が承認時に定める一定期間、再審査制度が適用される。
- c 製造販売業者には、医薬品等との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、国への報告義務が課されている。
- d 各制度により集められた副作用情報については、副作用の発生した都道府県の地方薬事審議会において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

問 1 1 6

医薬品医療機器等法第 6 8 条の 1 0 第 2 項の規定に基づく医薬関係者に義務付けられている医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とはならない。
- b 報告内容の正確性を高めるため、報告様式の記入欄すべてに記入しなければならない。
- c 報告期限は特に定められていないが、保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、報告の必要性を認めた場合においては、その旨を都道府県に報告することとされている。
- d 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合には、健康被害の情報に直接接した専門家 1 名から報告書が提出されれば十分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 1 1 7

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 人体に直接使用する殺菌消毒剤による健康被害は、救済制度の対象となる。
- b 個人輸入により入手した医薬品による健康被害は、救済制度の対象となる。
- c 一般用検査薬による健康被害は、救済制度の対象となる。
- d 一般用医薬品が原因とみられる健康被害の救済給付の請求にあたっては、医師の診断書があれば、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書等は不要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 1 1 8

医薬品 P L センターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品及び医療機器に関する苦情の申立ての相談を受け付けている。
- b 消費者が製造販売元の企業と交渉するにあたって、消費者側の立場に立って交渉の仲介や調整・あっせんを行う。
- c 製造物責任法の施行と同時に、日本製薬団体連合会において開設された。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 |

問 1 1 9

塩酸フェニルプロパノールアミン（P P A）含有医薬品に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

2003年8月までに、P P Aが配合された一般用医薬品による（ a ）等の副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている（ b ）患者の使用によるものであった。そのため、厚生労働省から関係製薬企業等に対して使用上の注意の改訂、情報提供の徹底等を行うとともに、代替成分として（ c ）等への速やかな切替えにつき指示がなされた。

- | | a | b | c |
|---|-------|------|---------------|
| 1 | 脳出血 | 高血圧症 | プソイドエフェドリン塩酸塩 |
| 2 | 間質性肺炎 | 高血圧症 | フルスルチアミン塩酸塩 |
| 3 | 間質性肺炎 | 糖尿病 | プソイドエフェドリン塩酸塩 |
| 4 | 脳出血 | 高血圧症 | フルスルチアミン塩酸塩 |
| 5 | 脳出血 | 糖尿病 | フルスルチアミン塩酸塩 |

問 1 2 0

医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「6・26 国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 薬物乱用に関する啓発は、小中学生に対して行うと、かえって違法薬物に対する好奇心を刺激することになるため、高校生以上から行うこととされている。
- c 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	誤	正